ボルネオ島サバ州の *Catopsilia scylla* (Linnaeus) について

原　聖樹・岩重　力・伊藤哲夫
神奈川県津久井町中野617　北相寮・東京都板橋区宮本町21・厚木市厚木町1－22

Notes on *Catopsilia scylla* (Linnaeus) (Lepidoptera: Pieridae) in Sabah, Borneo

SEIKI HARA, CHIKARA IWASHIGE and TETSUO ITO

Catopsilia scylla (Linnaeus) は，♂の前翅が純白色，後翅は橙黄色，♀は前翅乳白色，後翅暗黄色で，表面前後翅の対照があざやかな美しいシロチョウである．分布は，南ビルマからマレイ半島・マレイ群島をへてフィリピン・オーストラリアにおよんでいる．Corbet & Pendlebury (1947) によれば，ボルネオ島から未知であったが，1968年8月に森下和彦氏がサバ州 Inanam (海岸線平野部) で2♂♂を採集され，この島にも分布していることが明らかになった (森下，1970)．

1972年12月26日～73年1月10日，筆者らは昆虫調査団を編成してボルネオ島北東部のサバ州 (マレーシア領) でキナバルカンアオイ？の探索を行なったが，その際多数の本種を目撃し，同地ではけっして珍しいものではないことを確認できた．普通種ながら分布上の問題を含む種のように考えられるので，とりあえず問題提起の意味をかねてその概要を報告しておく．

同行して調査に協力下さった熊井喜美雄，牛山文雄両氏，種々の教示をいただいた牧林功氏，文献その他で援助をいただいた波多野和夫，河合良一郎，坂口浩平博士の諸氏，および本調査行に有形無形の援助をいただいた石川光一，田島茂，新川勉諸氏をはじめ多くの方々，さらにこの発表に当たり重要な援助を賜わった森内茂博士に深謝する．

本稿の要旨は，日本鱗翅学会第20回大会 (1973年11月11日，大阪府立大学農学部) で講演した．

調査の概要

平地では海岸に近いパパ (Papar，鉄道沿線) の部落内で数頭見られた．山地ではラナウ (Ranau)・ポリン (Poring) (以上はキナバル山腹) に多産し，採集したものの他にも多数の♀♂を目撃した．両地とも人家の周辺に多いが，ラナウ～ポリンでは山間の車道沿いにも多かった．筆者らの行程中，コタキナバル (Kotakinabaru)・タンジョアル (Tanjongaru)・カパヤン (Kapayan)・ブッフォート (Beaufort)・パンギー (Pangi)・ライョー (Rayoh) (以上は鉄道沿線)・タンパルリ (Tamparuli)・ヘッドクォータ (Headquarters) (以上はキナバル山麓～山腹)・モヨグ～ババゴン (Moyog～Babagon) ではまったく見られなかったことから，発生地はやや局限される傾向がうかがわれる．

部落の内外，田園，林縁など人為的色彩の濃い陽光地にのみ姿を現わし，いわゆるオープンランドのチョウのようである．常に他の *Catopsilia* (*crocale* Gramer, *pomona* Fabricius および *pyranthe* Linnaeus)* と混飛し，習性も同様であるが，飛翔中は黄色部が目立って美しい．主として地上高 1～3 m 空間を敏捷に飛翔してなかなか止まらず，また人影をさけて飛ぶが (人に近づくと数 m 先で方向転換してしまう)，時折種々の草花を訪れる．とくに白・黄・橙黄花に多く集まり，吸蜜時，休止時には常に翅を閉じている．他に数頭の♂ (いずれも新鮮体) が人家の軒下の地表に集団をなして吸水している光景にも2度出会った (1月2日午後1時および2時，ラナウ)．活動盛期は午前～正午で午後にも見られるが，3時をすぎると急速に見られなくなってしまう．曇天時には飛翔しなか

*これらの3種は，筆者らの行程中ほぼ全域で見ることができたが，*scylla* は上記の地以外では見ていない．

Figs. 1–3. Habitats of *Catopsilia scylla* (Linnaeus) in Sabah: (1) Ranau; (2) Poring; (3) Papar.
Fig. 4. A pupal shed of *Catopsilia* sp. on a tall tree of *Cassia* sp.

った.

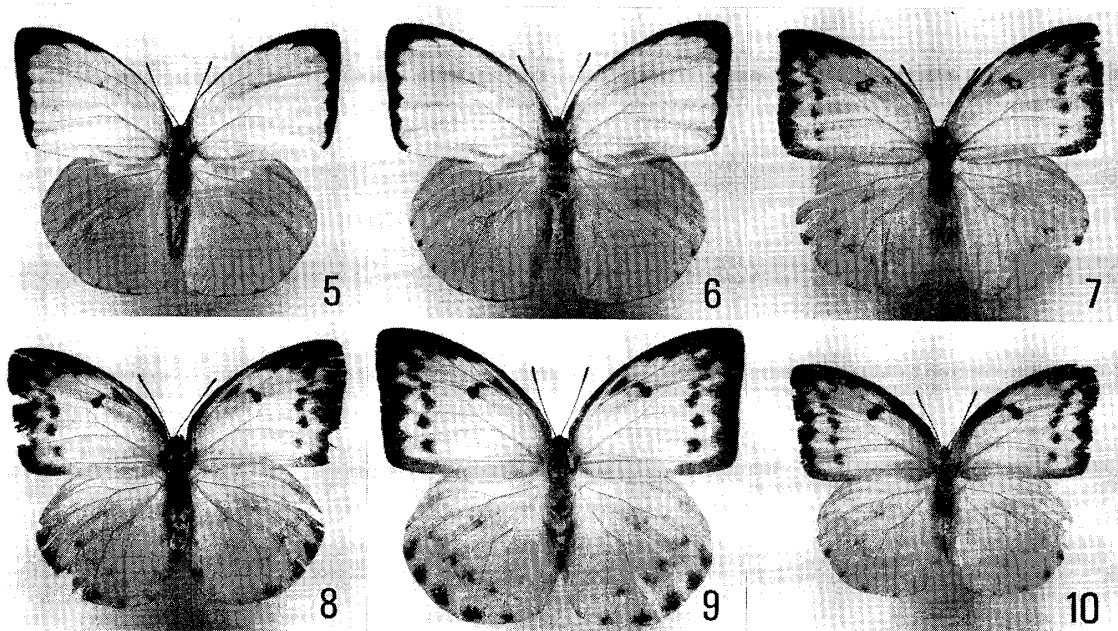
平地，山地をとおして♀♂ともに鮮度はさまざまな段階のものが見られ，発生盛期に当るようであった.

採 集 記 録

採集品は次のとおりである．◎は新鮮，●は汚損，○はその中間であることを意味し（翅の破れは考慮せずに色彩の鮮度で判定)，採集者名は，H（原)，I（岩重)，K（熊井)，T（伊藤）と略記する.

Papar, 2♂◎, 1♂○, 1♂●, 1♀○, 29. XII. (H, K, T)；Ranau, 6♂◎, 1♂○, 3♂●, 1♀◎, 1♀●, 2. I. (H, I, T)；1♂○, 1♂●, 4. I. (H)；1♂◎, 1♂○, 1♂●, 2♀◎, 6. I. (I, T)；Poring, 1♂◎, 1♂●, 3♀○, 2♀●, 3. I. (H, K, T)；2♀◎, 1♀○, 4. I. (I, T)；1♂◎, 1♂○, 1♂●, 3♀◎, 2♀○, 1♀●, 5. I. (H, I, K, T).

考察と今後の課題

近隣諸地域における本種の地理的分布から見ても，本種のような大形美れい種で目立ちやすいチョウが最近まで

Figs. 5–10. *Catopsilia scylla* (Linnaeus), Sabah: (5–6) ♂; (7–10) ♀.

ボルネオから無記録であったことは，むしろ不思議である．あるいは古い記録が存在するのかもしれないが，いずれにせよこの島の本種についてはあまり注目されていない．

Catopsilia は移住性のチョウとして知られ，*crocale*, *pomona* および *pyranthe* などは日本でも偶産記録が多いし，本種の英名 the orange emigrant, the lemon migrant, the yellow migrant もそのへんのところを物語っているのかもしれない．したがって，本種が比較的新しい時代に近隣諸島から移住してきたということも，あながち考えられないことではない．しかし，最近の開発にともなって急激に個体数を増加した，という見方もできる．また，発生期の関係からいままで採集家に見つかる機会が少なかったということも考えられよう．いずれにしても，本種はオープンランド性のチョウで，開発途上にあるサバ州では，今後このチョウの生息に好適な環境は拡大される一方である．飛翔圏の広いこのチョウにとって，その産地や個体数は増加の一途をたどるであろうと推定される．また，発生量の季節的および年変動がはげしいことも他の *Catopsilia* で知られており，本種にもこのようなことがあるかもしれない．

今後の課題としては，本種のボルネオにおける生活史を明らかにすることおよび年間の発生状況を知ることが重要である．ちなみに，本種の食草としては *Cassia fistula* ナンバンサイカチおよび *C. obtusifolia* (Java), *Tephrosia candida* (Malay), *C. glauca* (Australia) などが知られており，本種の採集地パパ，ラナウおよびポリンには，いずれも *Cassia* sp. が見られたので，おそらくこれが食草の一つになっているものと思われる．

原名亜種 *scylla* は Java から記載されたが，その後 *sidra* (Soembawa), *scylloides* (Babber, Tanimbar, Wetar, Timor), など), *asaema* (Celebes), *bangkeiana* (Bangkei), *moluccarum* (Moluccas), *etesia* (Australia), *praerubida* (Luzon), *gorgophone* (Cape York〜Sydney), *cornelia* (Malay Peninsula) などいくつかの亜種が知られている．また，とくに♀において乾期型 (f. *ascylla*) と雨期型 (f. *minacia*) がある点も注目される．筆者らがサバ州を訪れた時期は雨期に属するが，同地における雨・乾期の気候差はあまり顕著ではなく，同地の本種に季節型が認められるかどうかは今後の検討を要する問題である．サバ州のものがどの亜種に属するか，あるいは別亜種とすべきものかどうかは，近隣諸地域産との形態上の差違について目下研究中である．

フィリピンのオナシアゲハのように，サバ州産の本種が近年になって他地域から移住してきたということも考えられないことではないので（近年本種の数が増して急に目につきやすくなったように思われるふしがある），そういった観点からの追究もあわせて考慮したい．今後同地を訪れる方々に，普通種ながら本種にも注目してほしいと

願うしだいである．また，ボルネオおよび近隣諸地域，東南アジアにおける本種の資料などお持ちの方は，筆者らにご教示いただければ幸甚である．

参考文献

Common, I.F.B. (1964) *Australian Butterflies*. The Jacaranda Press, Melbourne.

Corbet, A.S. & Pendlebury, H.M. (1947) *The butterflies of the Malay Peninsula*. Second Edition. Oliver & Boyd, Edinburgh.

D'Abrera, B. (1971) *Butterflies of the Australian Region*. Lansdowne, Melbourne.

日浦 勇 (1973) 海をわたる蝶．蒼樹書房，東京．

宮田 彬 (1973) フィリピンのオナシアゲハについて．蝶と蛾 24：37−41.

Morishita, K. (1970) *Catopsilia scylla* found in Borneo. *Tyô to Ga* 21：71.

森下和彦 (1970) マレイ群島の蝶(2)．やどりが 61：29.

Seitz, A. (1909) *Macrolepidoptera of the World* 9. Alfred Kernen Verlag, Stuttgart.

白水 隆 (1960) 原色台湾蝶類大図鑑．保育社，大阪．

——— (1965) 原色図鑑日本の蝶．北隆館，東京．

Summary

The Bornean *Catopsilia scylla* (Linnaeus) has hitherto been known from only two males, which were taken at Inanam, Sabah in August, 1968 (Morishita, 1970). During our short stay in Sabah, we could capture many males and females of this butterfly at Papar, Ranau and Poring on December 26th 1972 to January 10th 1973. Some ecological notes on *C. scylla* in Sabah (e.g., abundance, habitat, adult behavior) are given in this paper. We are interested especially in that this species seems to be rapidly increasing in population, considered together with the question of adult migration. The problems of the subspecific status and the seasonal form of *C. scylla* in Sabah are still under consideration.